

『神が受け入れてくださる礼拝・1』 '20/05/10(ライブ礼拝) 聖書箇所:ローマ人への手紙 12 章 1 節(新約 p.308)

皆さん、おはようございます！今日は、「母の日」ですね。教会に来られているお母さん方！いつも、ありがとうございます！今日は直接、皆さんの顔を見て、感謝の気持ちを伝えられないのが残念ですが、その代わり、皆さんのご家族が、感謝の気持ちを伝えてくださいますことを願っています。どうか、今日だけに限らず、毎日毎日、神様に喜ばれる選択 & 神の前に正しい生活を送ってくださって…、それによって、私たちの主なる神様の栄光が現わされていくことを願います。それでは、今日も賛美をもって、礼拝を始めましょう！

<メッセージ>

実は今日、私たちは、「母の日」に関するテーマでもって、聖書のみことばを学んでいくことはいたしません。今日は、私たちにとって、これまた、かなり重要な「礼拝」というテーマでもって、聖書のみことばを一緒に学んでいきたいと思えます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、ローマ 12:1 をお開きくださいますでしょうか？…ここから今日、私たちは、「真の神様が受け入れてくださる礼拝とは、どのようなものであるか？」というテーマでもって、聖書のみことばを学んでまいります。

命題: 真の神が受け入れてくださる礼拝とは、どのようなものでしょう？

…と言いますのも、私たちが、いくら熱心に礼拝を捧げようとも…、あるいは、どれほど、大きな犠牲を神に捧げようとも、その礼拝が神様に受け入れられない…、あるいは、神様に喜ばれないという可能性があるので。…例えば、皆さん、覚えてくださっています？その昔、カインとアベルという兄弟が、神様へ捧げ物を捧げましたけれども、天の神様はアベルの捧げ物を目に留めてくださったのに、一方、カインの捧げ物には目を留められなかったでしょ？…一体、どうしてでしょう？

⇒それは、カインの側に「問題」があったからです！実は、創世記 4 章を見ても、そこで、神様は、カインに対して、こんな風に、おっしゃっておられます、『あなたが「正しく行った」のであれば、受け入れられる。』って…。実は、この、「正しく行う」と訳されてあるヘブル語(נָצַח)は、「喜ばせる、満足させる、意に沿う…」というイメージの言葉です。要は、カインの側に原因があったのです！もちろん、神様の側の好き嫌いではありません。

良いでしょうか？皆さん！…実は、私たちが今、こうやって捧げている礼拝も、神様に受け入れられていない…、神に喜ばれていない可能性があるのです！もしも、私たちが今、捧げている礼拝が、神様に喜ばれていないのなら、私たちは今、全くムダな時間を過ごしていることになりはしないでしょうか？…いえ、それだけではありません！私たちが今、神様に喜ばれている礼拝を捧げているかどうかと言うのは、私たちの救いが本物かどうか？あるいは、私たちの生き方が正しく…、的を射ているかどうか？神のみことばに沿ったものであるかどうか？ということも吟味してくれる、重要な事柄なのです！

ですから、今日、私が皆さんに願いますことは、どうか今日、説き明かされる神様のみことばが、本当に正しいものかどうかを、まずは、皆さんの方で吟味して下さって…、もしも、それが、本当に、神様の願っておられること…、神様のみことばであると確信して下さったら、勇気をもって、そのみことばに従い続けていってくださることです！どうぞ、まずは、今から語られるメッセージに対して、真剣に耳を傾けてくださいますよう、お願いします。それでは、まず、今日与えられた、ローマ 12:1 のみことばをお読みいたしましょう。そこには、このように記されています。

1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

I・救われた者が捧げる礼拝！

まず、このみことばが1番に教えてくれていること…、それは、正しい礼拝に関する「対象」、つまり、私たちの礼拝が神様に受け入れられるためには、私たちが「救われたいいけない！」ということです。…まずは、そういったことを、今から、一緒に確認をしていきましょう。

●神が受け入れてくださらない礼拝？

今読んだみことばには、『神に受け入れられる…』という言葉がありました。つい先程紹介した、カインとアベルのエピソードからも分かりますように、天の神様は、私たちの捧げる捧げ物や礼拝を、すべて喜んで受け入れてくださるか？というと、決して、そうではありません。私たちは、神が「受け入れて」くださらない礼拝もあるのだ！ということ、まずは、肝によく銘じておかなければなりません。

例えば、皆さんはご存知でしょうか？…レビ記 10 章を見てみますと、そこには、あの大祭司アロンの子どもたちが、せっかく、祭司となったのに、神が命じられたのとは違った『異なる火』を捧げてしまったため、たちどころに、『【主】の前から火が出て、彼らを焼き尽くし、彼らは【主】の前で死んだ…』(レビ記 10:2)ということが記されています。

また、Ⅱサムエル記 6 章、そこには、ダビデ率いるイスラエルが、『神の箱』を運んでいるシーンが描かれています。その時、ダビデたちは、その神の箱を、わざわざ、新しい車を用意して運んだ、ということが記されています。しかし、その時、牛が、神の箱をひっくり返しそうになったので、ウザという人物が、それを手で押さえたのです！…神の箱がひっくり返ってしまわないように！…しかし、その後、ウザは、どうなったでしょう？⇒彼は、神の怒りを受けて、その瞬間に死んでしまったのです！そうでしょ？

また、こんなこともありました…。どうぞ、皆さん、もしできましたら、出エジプト記 32:1-4 を開けてみてください！『1 民はモーセが山から降りて来るのに手間取っているのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、私たちに先立って行く神を、造ってください。私たちがエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにわからないから。」2 それで、アロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳にある金の耳輪をはずして、私のところに持って来なさい。」3 そこで、民はみな、その耳にある金の耳輪をはずして、アロンのところに持って来た。4 彼がそれを、彼らの手から受け取り、のみで型を造り、鑄物の子牛にした。彼らは、「イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ」と言った。』

⇒どうか、皆さん。このみことばによく注目してください。この時、アロンと、そこに集まったイスラエルの民たちは、真の神を知らなかったのでしょうか？…いいえ！彼らは、真の神が、自分たちのことを、あのエジプトから連れ上ってくださった御方だ！ということを知っていました。ただ、彼らは、モーセが、長い間、山から降りてこなかったから不安だったのです！あるいは、自分たちの目に見える…、触れることができる神様(の像)が欲しかったのです！そうでしょ？

そこで、彼らは、金を集めて、金で出来た子牛の鑄物を造りました。所謂、偶像です！しかし、そのことが、神の怒りに触れて…、危うく、イスラエルは全滅させられるところでした(出エジプト記 32:10)。しかし、モーセが必死になって、イスラエルのために執り成しをしたおかげで、3,000 人が命を失うだけで済んだのです。そうでしょ？その出エジプト記 32 章は、こんな言葉で締めくくられています、『こうして、【主】は

民を打たれた。アロンが造った子牛を彼らが礼拝したからである。』って…。このように、間違っただけの礼拝は、時に、神様の激しい怒りを引き起こすことが有り得ます。

また、アモス書 5:21-23 には、このような神様の激しい言葉が記されています、『21 わたしはあなたがたの祭りを憎み、退ける。あなたがたのきよめの集会のときのおこりも、わたしは、かきたくない。22 たい、あなたがたが全焼のいけにえや、穀物のささげ物をわたしにささげても、わたしはこれらを喜ばない。あなたがたの肥えた家畜の和解のいけにえにも、目もくれない。23 あなたがたの歌の騒ぎを、わたしから遠ざけよ。わたしはあなたがたの琴の音を聞きたくない。』って…。

⇒いかがでしょう？…非常に厳しくないですか？…時々、私たちクリスチャンは、こう言います、「神は、私たちの心を御覧になっておられるから、私たちが正しい心で…、正しい動機で礼拝を捧げていけば、きっと、神はその礼拝を受け入れてくださるに違いない！」って…。でも、果たして、それは真理でしょうか？…例えば、さっき紹介したウザは、神の前に正しい動機で、神の箱を押さえたのではないのでしょうか？…敢えて、私は言わせていただきます！もしも、皆さんが、正しい動機で礼拝や捧げ物を捧げられたとしても、方法が正しくないために…、あるいは、内容が正しくないために、ひょっとしたら、それが、神様に喜ばれていない可能性があります。また、もしも、皆さんが、正しい捧げ物を捧げられても、その動機が…、その心が神様に喜ばれていないなら、それもまた、神様は受け入れてくださらないでしょう…。

だから、私たちは、「正しい礼拝」ということについて、しっかりと学ばないといけないのです！どうぞ、皆さん、私たちが先週に学んだみことばを思い出してみてください。先週、私たちは、ヨハネ 4 章から、イエス様とサマリヤの女が交わした会話を通して、救いについて学びました。そこで、イエス様は、サマリヤの女に対して、こんなことを教えてくださいました？ヨハネ 4:23-24、『23 しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。24 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。』って…。

先週の礼拝で、私たちが学んだように、神が望んでおられるのは、「霊による礼拝でも無ければ、まことによる礼拝でもありません。“霊とまこと”という2つの要素が、両方とも揃っていることが必要なのです！それこそが、『真(しん)の礼拝者』であり…、そのような礼拝者を、神は求めておられるわけですよ？

●救われたあなたに、神が 願って おられること

どうぞ、もう1度、今日のみことばである、ローマ 12:1 に戻ってくださいますか？…どうぞ、その最初のみことばに注目してみてください。そこには、何と書かれていますか？⇒そこには、こんな言葉が記されています、『そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。…』って…。そうですね？

実は、ここで使われている、**『そういうわけで…』**と訳されているギリシア語の接続詞(οὖν)は、「(それまでの流れを受けて、)そういうわけで、それゆえに、それに対して…」というようなイメージの言葉で、「それまでの流れを受けて…、だから、こうあって当然！あなたは、こうすべきだ！」ということ促すような時に使われる言葉なのです。実際、これ以外の幾つかの言葉も、そのことをサポートしてくれています。

だから、その次に、日本語の聖書では、『兄弟たち…』と続いています。この『兄弟たち』というのは、同じ主によって救われた兄弟姉妹のことを指していて…、明らかに、救われたクリスチャンたちのことを指しています。それだけじゃありません…。その後には、こうありますでしょ？『私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。…』って…。「神のあわれみ」とは、「神が、私たちのことを可哀想に思っただ

った…」ということです。…とは言っても、この「神のあわれみ」とは、もう少し具体的に、どんなことを指すのでしょうか？普通、そういった言葉を調べる場合は、その言葉が、少し前に、どんな意味で使われているかを探ることが基本なのですが、残念ながら、これと全く同じギリシア語の言葉は、ここローマ書では使われておりません。…しかし、これと似たような意味で、日本語では同じように、「あわれみ」と訳されている言葉なら、何度か、ここローマ書でも使われています。そこでは、ほとんど、「神のあわれみのゆえに、私たちが救われた…」という感じで使われています。

どうぞ、皆さん。もしできましたら、ローマ 9:13-18 をお開きくださいますか？ここで、パウロは、神様の一方的な選びによる救いについて語ってくれています。『13 「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ」と書いてあるとおりです。14 それでは、どういうことになりますか。神に不正があるのですか。絶対にそんなことはありません。15 神はモーセに、「わたしは自分のあわれむ者をあわれみ、自分のいつくしむ者をいつくしむ」と言われました。16 したがって、事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。17 聖書はパウロに、「わたしがあなたを立てたのは、あなたにおいてわたしの力を示し、わたしの名を全世界に告げ知らせるためである」と言っています。18 こういうわけで、神は、人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままにたたくにされるのです。』

⇒いかがですか？ここで言われている、「事は人間の願いや努力じゃない！」とか、「神がみこころのままに憐れんでくださって、みこころのままに頑なにされる！」というのは、救いのことです。だから、このすぐ後で、パウロは、陶器師の例えを使って、誰が救われて誰が救われないか？…そういったことを最終的に決められるのは、主権者なる神様である！という話をしているわけですよ。

だから、パウロは、ここローマ 9:22 で、こう言うのです、『ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださったとしたら、どうでしょうか。』って…。こう言って、本当ならば、神が怒りを下して当然のはずなのに、その怒りを忍耐してくださった！という話をパウロはしてくれています。…皆さんも覚えてくださっているでしょ？このローマ書が教えるのは、私たちの身勝手な生き方や罪のゆえに、神が怒っておられる！…しかし、その神が、私たちのことを憐れんでくださって、救いの道を用意してくださったのだ！ということが、ローマ書前半の内容なのです。

だから、皆さん、覚えてくださっていますか？…少し前に、私たちが学んだ、エペソ 2 章からのメッセージで、「私たちが救われた理由」について学びましたが、その1つ目の理由が「神様からの憐れみ」だったでしょ？私たちは、このような神様の憐れみによって救われたのです！…だから、ここで、パウロが、『神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします！』と言うのは、ローマ 1-11 章に記されている、神様の偉大な憐れみのことをいうわけで、具体的には、イエス様が、人間となって、この地上に来てくださったこと、そして、そのイエス様が、私たちの罪の身代わりとなって、あの十字架上で死んで、私たちが救われる道を用意してくださったことです！「そのような憐れみのゆえに救われたのだから、クリスチャンの皆さん！私は、このことをあなたがたに願います！」というわけなのです。

しかも、ここで、『あなたがたにお願いします！』と訳されているギリシア語の言葉(παρακαλώ)は、「普通のお願い」ということではなくて、もっと強い意味で、「懇願する、願い出る、助けを求める…」というようなイメージの言葉で、ここで、パウロは、救われたクリスチャンたち全員に対して、強く、「あなた方は、こうあるべきだ！こうありなさい！」ということを教えてくださいました。

救われた者に対して、神様が願っておられること…、それは、神様に喜ばれる礼拝を捧げることです。ある意味、あなたは、礼拝を捧げるために救われたと言い得るのです！どうか、皆さん。できましたら、エペソ 1 章を開けてみてください。…実は、ここでは、三位一体なる神様が、私たちにしてくださった働きについて教えてくださいました。どうぞ、その 3 節をご覧ください。そのみことばは、『私たちの主イエ

ス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあつて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。』とあつて、私たちが大変な祝福に預かっていることを訴えて、そのゆえに、神様がほめたたえられるように…、つまり、神様の栄光が現わされることを願っています。

どうぞ、ここエペソ 1:3-6 をご覧ください。実は、ここでは、私たちのために、父なる神様がなしてくださいましたことについて記されています。その最後、6 節のみことばは、こう教えるわけです、『それは、神がその愛する方にあつて私たちに与えてくださった恵みの栄光が、“ほめたたえられるため”です。』つて…。⇒神のなしてくださいました恵みの栄光が…、その恵みの素晴らしさがほめたたえられる…、これは「礼拝」です！

どうぞ、その次、7-12 節をご覧ください。ここには、私たちのために、イエス様がなしてくださいました御業について記されています。その最後、12 節にも、こうあります、『それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光を“ほめたたえるため”です。』つて…。ここでも、先程と同じように、「ほめたたえられるためです…」とあります。ここで、「ほめたたえられる“ため”です」とあるのは、理由や目的を表わしています。私たちは、神をほめたたえるため…、つまり、礼拝のために救われたのです！

どうぞ、今度は、13-14 節をご覧ください。ここでは、聖霊なる神様の働きについて記されています。その 14 節にも、こうあります、『聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光が“ほめたたえられるため”です。』つて…。良いですか？ 私たちは皆、神様をほめたたえるために…、礼拝するために救われたのです！

どうか、皆さん、先週も少しだけ引用した、ルカ 17 章に記されている、「いやされた 10 人のツアラアトの（≡重い皮膚病）者たち」のことを思い出してみてください。…あの時、10 人の者たちが癒されたのに、イエス様のところへ戻って来て、イエス様に感謝を捧げたのは、たった 1 人のサマリヤ人だけでした。その時、イエス様は、何とおっしゃいました？ ルカ 17:19、『それからその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。』つて…。ここで、イエス様は、「あなた方」とはおっしゃらず…、「あなたの信仰が、あなたを直した！」という風におっしゃいました。…つまり、この時に、からだだけでなく、たましいも癒された（＝救われた）のは、この感謝を捧げるために戻って来たサマリヤ人だけだったのではないのでしょうか？

このように、本当に、神様によって救われた者たちは皆、その救われた感謝を神に捧げようとする。…それこそ、今日のみことばのローマ 12:1 が教えてくれている内容であり…、聖書のみことばが全体として教えてくれていることではないでしょうか！ もう何度も言っていますのは、本当に、人が救われたら、その人は神が変えてくださるがゆえに、その人は、神を礼拝するようになるのです！ そうじゃないのでしょうか？

II・真の礼拝とは、**受ける** ものではなく、**捧げる** べきものである！

どうぞ、今度は、真の神様が受け入れてくださる「礼拝の動機」について見ていきましょう。真のあるべき礼拝とは、私たちが“受ける”ものではなくて、“捧げる”べきものである！ ということです。これは、一体、どうということなのでしょう？

●多くのクリスチャンたちが 間違つて 持つてしまっている、礼拝に対するイメージ

今、ここで、ちょっと皆さんにお尋ねしたいのですが、皆さんは、これまで、「礼拝」について、どのような動詞を使ってこられましたか？ ⇒例えば、「礼拝を持つ、礼拝に預かる、礼拝を守る、礼拝に出席する、（あるいは）参加する、受ける…」など、実に、様々な表現が礼拝に付いてきます。正直、私は今、それらの表現が間違っている！ というつもりはありません。しかし、礼拝という言葉に、1 番ふさわしいのは、やはり、「捧げる」という表現であり…、そのような“意識”だと私は考えています。

…と言いますのは、まず 1 つ、先程のエペソ 1 章で見たように、「私たちは、神を“ほめたたえるため”に救われた！」という聖書の教えであります。…と同時に、聖書の中で、何度も繰り返し使われている、『礼拝』という言葉に対するイメージであります。実は、聖書の中で、「礼拝、拝む、ほめたたえる…」と訳されてあるギリシャ語の言葉で、最も一般的なのは、「プロスキュネオー（προσκυνέω）」という言葉で、これは新約聖書中で約 60 回使われていて、英語の Kiss と関係があつて、「ひざまずいて接吻する、尊敬する、ひれ伏す…」というイメージで使われてあります。それと、もう 1 つの言葉は、「ラトリューオー（λατρεύω）」という言葉で、これは、新約聖書中 20 回ほど使われていて、「誉れを与える、敬意を表わす、礼拝する…」というイメージの言葉なのですが、これら両方とも、「相手側に“捧げる”というイメージを持っているのです。

どうか、皆さん。誤解をしないでくださいね！ …私は、礼拝を通して、私たちが何かを受けることを否定したいのではありません。実際、私たちは、礼拝を通して、いろいろなことを教えられたり、戒められたり、励まされたりして…、いろいろな祝福を受けることができます。私は、そういったことを否定したいわけではないのです。

ただ、私が問題に感じるのは、先程もチラッとと言いましたように、“私たちの動機”であります。もしも、皆さんが、何かを受けるために…、あるいは、自分のため…、自分自身の利益のために、礼拝を持っておられるなら、それは、聖書の教えとは合致しません。…と言いますのは、今日のみことばに、『**それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。**』とあるからです。先週学んだみことばの場合もそうでしたけれども、ここで言われている『**霊的な**』という意味は、今、私たちが時々使うような「スピリチュアル」という意味ではありません。これは、先週と同じく、「道理にかなった、理屈が通った、合理的な、（どちらかと言うと感情的でない）理性的な…」というような意味の言葉が使われています。そういったような意味じゃないと、その前の言葉や話の流れとも繋がらないですよね？

つまり、私たちが、こんなに偉大な神様の憐れみによって救われたのだから…、私たちは、その神様をあげめるべきである！ 神様の素晴らしさを証する…、ほめたたえるべきである！ というようなイメージであつて、決して、自分のために、礼拝に預かるというようなイメージではないのです。

それと、もう 1 つ、今日、皆さんと一緒に確認をしたいのは、旧約時代と今の時代との違いです。かつて、旧約の時代には、神様にいけにえや捧げ物を捧げるのは、祭司たちでありました。そうでしたよね？ しかし、今、「教会の時代」にあつては、そうではありません。今、御霊のバプテスマによって、キリストと一体とされた私たちクリスチャンは、今、祭司としての務めを、神様から託されているのです。

どうか、できたら、**1 ペテロ 2:5** をお聞きください。…ここには、今の時代に救われたクリスチャンたちが皆、神様から祭司としての務めが与えられている！ ということが教えられています。『あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、**聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。**』つて…。『霊のいけにえを捧げる…』これこそ、礼拝でしょ？ …また、少し後の 9 節もご覧ください。『しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが**宣べ伝えるため**なのです。』

⇒このように、私たちは今、神様のみこころのゆえに、祭司としての務めが与えられています。だから、今の時代に、私たちは、『**霊のいけにえ**』を捧げるに当たって、神様との仲介役である祭司にお願いしなくても良いのです。…だって、私たち自身が、今の時代の祭司なのだから…。そうでしょ？

してくださっているのです！

実は、私たちの教会でも、時々、質問されることなので、ここでもう1度、説明させてください。私たちの教会以外の、恐らく、ほとんどの教会では、礼拝の最後に「祝祷」というものがあって、普通は、その教会の牧師先生が、聴衆の…、あるいは、教会の祝福を祈って、礼拝を閉じることが多いです。まず、皆さんに断っておきたいのは、私は、その祝祷を否定しているのでは全くありません。むしろ、良いものであると考えていますし…、今後、何かの状況が変わって、私たちの教会でも祝祷を取り入れるかも知れません。

しかし、私自身、抵抗があるのは、1番に、「私自身の霊性」です。…と言っても、今、私が何か大きな罪を犯しているということではありません。しかし、私は、皆さん以上に、自分自身のことを知っています。私が如何に罪深いか(≡自分の愚かさ、傲慢、弱さ)を知っています。もちろん、祝祷というのは、その“牧師が”、その聴衆のことを祝福するものではありません。あくまでも、牧師が、その群れの代表となって、神様からの祝福を祈るわけです。しかし、もしも、私が霊的な人間だということで、私が祝祷を捧げるなら、私は、正直、本庄兄か幸島兄にお願いしたいです。…と言いますのも、私よりも、本庄兄や幸島兄の方が、霊的に成熟していると知っているからです(牧会者としての訓練や賜物、神のみこころなどは別)。また、この教会には、本庄兄や幸島兄以外にも、霊的に成熟しておられる兄弟姉妹がおります。

それと、もう1つの理由は、先程見たエペソ 1:3のみことばが教えてくれているように、神様は、もう十分に…、いえ、ここでは、『天にある“すべての霊的祝福をもって”…』と教えられてあるように、すべての祝福を与えようと…、いえ、与えてくださっているのです。そうでしょ？…しかし、もしも…、もしもですよ。そこに、何らかの問題があるとすれば、神様ではなく…、私たちの側…、私たちの罪です！私たちの間違った選択や生き方です。そうじゃないでしょうか？…私たちが1番に祈るべきことは、「神様、どうか、私のことを祝福してください！私に困っていることにどうか気付いてください！」というようなことでしょうか？

それとも、「神様、どうか、私が、いつもいつも、神様のことを1番に愛して、神様のみこころ通りに歩めるよう、弱く愚かな私を助けてください！私を導いてください！今日、学んだみことばを実践できるよう、私の中にある罪や愚かさ…、怠け心を砕いてください！」ということでしょうか？どちらでしょう？私たちは今、神様によって救われた1人1人が、神様によって選ばれた祭司として召されたのではないのでしょうか？だったら、牧師先生に祝福を祈っていたらなくても…、私たち自身が、神様の前に喜ばれる決心を持って、神様の前に、より正しく…、より忠実に歩んでいく！という献身の思いを持って、礼拝を終わることもまた、重要であると私は思っています。

ま、このことについては、来週、もう少し詳しく学んでいきたいと思えます。残念ながら、今日は、ここで、今日のメッセージを終わらせていただきます。来週、また、皆さんと一緒に礼拝を捧げられることを楽しみにしています。最後に、お祈りをもって、今日の礼拝を終わらせていただきます。

今、多くの教会…、あるいは、多くのクリスチャンたちが間違ったイメージを礼拝に対して持ってしまっているように、私は思うことがあります。…と言いますのは、現代では、多くの教会が、「もしも、あなたが、今よりも良い生活を送りたいなら、神様を信じなさい！神様に従いなさい！神様に捧げなさい！」というようなことを教える傾向にあるからです。…実は今、私が言いましたのは、ここ日本では、まだ、そんなに大きくなってはいませんが、アメリカでは、かなりの勢いを増して、多くのクリスチャンたちを惑わしていると聞いています。ひょっとしたら、皆さんも、「繁栄の福音」とか、「信仰の言葉(Word of Faith)」というような言葉をお聞きになったことがあるかも知れません。

彼らは、こう教えるのです、「神様は、私たちクリスチャンたちのことを、もっと祝福したいのです！自分の子どもを祝福したくない親がどこにいるのでしょうか？」…そう言って、私たちクリスチャンが、もっと、たくさんの祝福に目を向けるべきことを勧めます。そして、「私たちが、もっと神様に対して、具体的に、たくさんの祝福を祈れば、そのようになるのだ！」という風に教えるのです。

皆さん、覚えてくださっています？もう、15年程前に流行した、「ヤベツの祈り」というのも、これと似たような傾向がありました。…要は、「私たちがもっと、神様を信頼して、具体的に、いろんなことを願えば、ヤベツの場合がそうであったように、私たちのことを神様が祝福して下さるのだ！私たちが、さらなる祝福を受けるべき秘訣は、ここにある！」みたいな謳い文句だったでしょ？

でも、皆さん、どう思われます？…ヤベツの祈りなんていうのは、旧約聖書のI歴代誌4章の中の、たった2節にしか登場してこない人物&エピソードなのです。そんなところに、果たして、「私たちが祝福されるカギが隠されている」のでしょうか？…もしも、そうだとしたら、この神様は、ちょっと意地悪な神様です。そうじゃありません？

しかし、私たちは、そうは思いません。例えば、もっと分かりやすい…、もっと有名な聖書のみことばに、こう教えられています。エペソ 1:3、『私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。』⇒天の神様は、もう既に、すべての霊的祝福をもって、私たちのことを祝福してくださっているのです！ただ、私たちが気を付けないといけないのは、その祝福は、“霊的なもの”であって、決して、物質的な祝福ではない！ということですよ。

また、例えば、IIコリント 12章を見ても、あのパウロが、自分の肉体のとげ(≡何らかの病気、外見?)を、神様に癒してほしいと3度も祈ったことが記されていますが、それに対する神様からの応答は、どのようなものでした？⇒『しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。』(IIコリント 12:9)ということを教えるわけです。そうでしょ？

また、あのローマ 8:28もそうです。そこには、『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。』とあって、私たちが今、様々な困難や問題の中にあつたとしても、実は、それは、神様の最善なる御計画の中にあるということを教えてくれているのではないのでしょうか？

実は、もうそろそろ、今日の礼拝を終わらないといけないので、この続きは、来週にさせていただきます。…しかし、その前に…、今日、最後に押さえておきたいことは、天の神様は、今、もう既に、私たちのことを最高に祝福してくださっている！ということですよ。確かに、今現在、私たちの周りには、たくさんの試練や迫害、あるいは、困難…、また、新型コロナウイルスなどの病気があります。しかし、天の神様は、そういう様々なものを用いて、私たちの信仰を試し…、私たちのことを成長させ…、私たちのことを用いようと